



No.61

長野県看護大学学報



第28回 鈴風祭を開催しました

令和7年9月6日(土)・7日(日) 開催

今年度の鈴風祭は「誰もがここにいていい理由」をテーマに、この地域が性別や年齢、障がいの有無に関係なく全ての人が健やかな人生を送る場所になるよう、そしてノーマライゼーション社会を実現する一助となるような鈴風祭にしたいという思いで、実行委員を中心に様々な方々のご協力を得ながら開催することができました。開催に向けて委員で相談を重ね、時には準備が夜までかかってしまうこともありましたが、委員から厚い信頼を寄せられる委員長を筆頭として、自分にできることを考え実行してきた委員一人一人の存在が鈴風祭の成功には不可欠だったと感じています。最後になりましたが、鈴風祭の開催に多大なるご協力を賜りました全ての皆様に、心より感謝申し上げます。

看護学部2年生 鈴風祭副実行委員長 富永 真悠さん

鈴風祭では、多くの方にお越しいただきました。来場された方が模擬店やイベントを楽しんでいる様子が伝わってきて、大変嬉しく思いました。模擬店を準備している学生スタッフも、大変楽しそうにしていました。これからも、このように楽しい鈴風祭が続いていけばと思いました。個人的には、実行委員会の学生たちと行ったテント設営が印象に残っています。暑い中での作業だったので、熱中症に気をつけながら作業を行いました。お昼には事務局の方から差し入れもいただきました。ご協力いただいた関係者、学生、ご来場いただいた皆様ありがとうございました。

看護学部2年生 学生自治会長 四本 友里さん

………… 第28回 鈴風祭学内展示 ……



今回初めて、精神看護実習で学生を受け入れてくださっている就労継続支援B型事業所3施設の鈴風祭への出展が叶いました。当日は大盛況で午前中の早いうちに売り切れになってしまったほどでした。ご来学者の方や領域実習がこれからの1・2年生にも、利用者様と関わる機会になり、地域で暮らす当事者の方と地域の方との関わりの場となりました。今後もこのような機会を設けることにより、地域で暮らす当事者の方に貢献してまいりたいと思います。

精神看護学分野 大曾根 由季
写真は掲載の許可をいただいています。



本年度の鈴風祭では、本学看護実践国際研究センター地域貢献活動部門「地域の健康・福祉増進のための専門職と地域住民との連携強化プロジェクト」主催で、精神障碍者のピアサポート活動を紹介する企画を行いました。具体的には、地域のピアサポートグループ「ピア南信しあわせの種」(ピア種)による活動紹介、特に、メンバーの座談会を撮影した動画上映、当事者自身によるミニ講義およびおしゃべり会、ビーズ手芸体験会などを行いました。本活動に関する詳細は右記二次元コードからピア種HPをご覧ください。



地域の健康・福祉増進のための専門職と地域住民との連携強化プロジェクトリーダー 屋良 朝彦

………… ホームカミングデー ……



長野県看護大学同窓会「鈴風会」は会員相互の親睦を図り、併せて母校と看護学の発展に寄与することを目的に活動しております。鈴風祭の初日に開催したホームカミングデーには学生委員会との共催として、はがきやSNSを用いた幅広い世代の卒業生への情報発信、駒ヶ根にちなんだクッキーを含むお菓子・飲み物・大学ロゴ入りグッズの提供、大学グッズを企画いたしました。近況報告や企画を通して1期生から卒後1年目の会員がつながり、温かなひと時となりました。創立30周年という節目の年を迎えた本学において、会員同士の交流と母校を更に盛り上げるべく、引き続き活動していきたいと考えております。

同窓会 副会長 湯澤 京子

創立30周年記念公開講座の開催と御礼

令和7年9月13日(土) 開催

1995年に開学した本学は、地域住民や実習施設の皆様方に支えられ30周年を迎えることができました。日頃からお世話になっている地域や実習施設の皆様へのお礼の意味を込めて公開講座を開催いたしました。また、この機会に同窓生の絆を深め、さらなる発展を期する機会といたしました。

ご講演を「長野県の健康福祉政策と今後の看護教育に期待すること」をテーマに、 笹渕美香 長野県健康福祉部長にお願いいたしました。長野県は全国トップレベルの健康長寿県ですが、人口減少と様々な格差という課題があります。持続可能で安定した暮らしを守り、誰にでも居場所と出番がある社会づくりをめざしておられ、本学にはその看護リーダーとなるべく期待を寄せいただきました。

シンポジウムでは「拡大する看護職のキャリア形成—様々な場で活躍する卒業生たちー」をテーマに卒業生3名が、学生時代や卒業後のキャリア形成のこと、現在のやりがいある活動を話されました。開学時から変わっていない教育理念のもと、3つの看護職となることが可能な統合カリキュラムで教育を受けた同窓生には共通の根っこがあり、教育の成果として確認することができました。次の30年に向かって継承していくかなければと心新たにいたしました。

本学は、地域や実習施設の皆様に支えられて発展してまいりました。皆様のこれまでのご尽力に感謝するとともに、引き続きお力添えいただきますようお願い申し上げます。

学長 大塚 真理子

講演「長野県の健康福祉政策と今後の看護教育に期待すること」

講師 笹渕 美香 長野県健康福祉部長

シンポジウム「拡大する看護職のキャリア形成—様々な場で活躍する卒業生たちー」

座長 学部長 安田 貴恵子

シンポジスト

清水 由佳 氏 (特定非営利活動法人utagu 理事長・平成12年度卒)

今村 明文 氏 (飯田市立病院 認知症看護特定認定看護師・平成20年度卒)

本間 永子 氏 (諏訪赤十字病院 看護師長・平成12年度卒)



笹渕健康福祉部長



左から 安田学部長、清水氏、今村氏、本間氏

創立30周年記念公開講座を終えて

本学が1995年に開学してから30年が過ぎました。これまでお力添えをくださった皆様への感謝に堪えません。そこで、これを記念して公開講座を開催いたしました。設置者である長野県からは 笹渕美香 健康福祉部長が「長野県の健康福祉政策と今後の看護教育に期待すること」をご講演くださいました。また、3名の卒業生に「拡大する看護職のキャリア形成—様々な場で活躍する卒業生たちー」についてお話をいただきました。3名とも素晴らしい歩みをされており、これこそが本学の30年の成果を雄弁に示していました。私たち教員にとっては大きな誇りであり、在学生にとっても将来を描く確かな道しるべになったと思います。今後も地域に開かれた大学として、学びの場を提供してまいります。

創立30周年記念プロジェクトリーダー 太田 克矢

令和7年度オープンキャンパス



大学説明 看護学部3年生2名が司会を担当しました



在学生との交流コーナー



成人看護実習室 看護体験コーナー

今年度のオープンキャンパスを8月2日(土)に開催し、高校生や保護者の方々など640名にご来場いただきました。看護体験や模擬授業では参加者の真剣な眼差しが印象的で、先輩から直接話が聞ける在学生との交流コーナーでは、あちこちで会話の輪と笑顔が広がりました。参加者からは「大学生活のイメージがわいた」「学生や教職員が親切で進学意欲が高まった」との嬉しい声も寄せられ、本学の学びの魅力と温かな雰囲気を実感していただける一日となりました。

広報・交流委員長 高橋 百合子

私は、これまでお世話になった大学に何か貢献したいと思い、オープンキャンパスに学生スタッフとして参加しました。当日は、大学説明と模擬授業の司会、館内放送を担当しました。このような場で司会や放送を務めることは初めてだったので緊張しましたが、貴重な経験になりました。参加された高校生が緊張しながらも目を輝かせて学内を見学している様子を見て、私も入学当初の気持ちを思い出しました。また、模擬授業に参加された高校生の姿を見て、学ぶ意欲や姿勢を見つめ直し、これからの勉強や実習により前向きに取り組もうと思いました。

看護学部3年生 大塚 優希奈さん

新任教職員紹介

9月に成人看護学分野に着任いたしました、松本聰子と申します。ご縁をいただき、駒ヶ根の地で教育と研究に携わることができ、大変感謝しております。趣味の野球観戦では、監督の戦略、選手の日々の準備、チームプレイなどから看護教育や研究に活かせることを模索しながら楽しんでいます。

皆さまには、成人看護実習や授業、委員会などでお世話になりますが、どうぞよろしくお願ひいたします。

松本 聰子(成人看護学分野 助教) 令和7年9月着任



【地域との活動紹介】

看護実践国際研究センター 地域貢献活動部門

「地域と連携した地域創生プロジェクト」ワークショップ

11月22日(土)、本学において「住民と大学がともにつくる支え合いのあるまちづくりボランティア実践者から学ぶワークショップ」を開催しました。定員50名が満席となり、地域住民の方々をはじめ、地元の高校生、本学の学部生・教職員が一堂に会し、ボランティア実践者の発表に続いて行われたグループワークでは、世代を超えて活発な意見交換が繰り広げられ、多様なアイデアや地域支え合いの具体策が次々と生まれました。参加者からは「学生さんがボランティアを希望してくれたことが嬉しく、大学が地域との関わりを大切にしていることも感じられた」等の声が寄せられ、地域と大学の新たなつながりを生む有意義な機会となりました。



地域と連携した地域創生プロジェクトリーダー 吉村 隆



高齢者水中運動プロジェクト

開学より20年間活動してきた高齢者の「水中運動講座」でしたが、コロナ禍で5年間中断しておりました。今年度より新たに「高齢者水中運動プロジェクト」として毎月第2・4水曜日に活動を行っています。毎回20名前後の方々が参加して、健康運動指導士の指導を受けながら1時間の運動プログラムで健康づくりを行っています。運動の前後で行う問診や水分補給コーナーでは参加者同士やスタッフ教員との間で楽しく会話が弾みます。お互いの近況を確認したりお悩み相談や情報共有したりと水中運動をとおして参加者、教員の隔てのない交流の場となっています。

高齢者水中運動プロジェクトリーダー 千葉 真弓

地域合同防災訓練

8月31日(日)午前、駒ヶ根市地震総合防災訓練に合わせて、町4区第4町内・上穂町区第5町内との合同防災訓練を本学にて実施しました。両地区から約40名が参加し、ファースト・ミッショーン・ボックス(FMB)を用いて避難所開設の初動対応を訓練しました。FMB導入2年目となる今年は、各地区の防災担当役員が主体となり、大きな声で指示書を読みながら的確に行動し、25分程度で避難住民を体育館に誘導することができました。終了後のアンケートでは「回数を重ねることで一層理解が深まる」「細部を詰めて改良していく必要性を感じた」等がみられ、今後も継続した訓練が重要であることを強く感じました。



防災委員長 御子柴 裕子

駒ヶ根市地震総合防災訓練に参加して

駒ヶ根市地震総合防災訓練に参加し、地域全体や各組織団体での協力の実際を近くで見てきました。消防団の災害現場での活動や水道が止まった場合の水道局の動き、自衛隊や日本赤十字奉仕団の協力などを見学し、被災者の救助や炊き出しなどは地域住民と組織団体の協力が大切なだと学びました。また、迅速な安否確認、情報共有ができるようドローンや無線を用いた訓練を行っており、このような訓練が被害を最小限に抑えることに繋がるのだと知りました。

今回、防災訓練に参加して、地域と様々な組織の関わりを学べる良い機会となりました。

看護学部2年生 林 穂美さん

【学生の活動紹介】

能登でのボランティア

私が輪島市のボランティアに参加させていただこうと思ったきっかけは災害看護に興味があり、被災地で何が必要とされているのか、またその現状を肌で感じたいと思ったからです。現地では道の隆起やブルーシートの家が連なっており、震災の大きさを物語っていました。市から委託を受け仮設住宅へ訪問し、生活の様子や体調、不安なことなど伺いました。被災された方々の思いを聞くなかで、コミュニケーションをとることの大切さを学ぶことができました。最初は自分に何ができるか不安でしたが、「来てくれてありがとう」と声をかけていただいたことが励みになりました。今回の経験を踏まえ、今後も災害看護を探究していくとともに、人との関わり方について考え、自分の知識と行動を磨いていきたいです。

看護学部1年生 倉嶋 凜音さん



「コミセン」：みんなが集まる場所

私は輪島市で約1週間、仮設住宅に住む被災者の方々の見守り・相談支援を行いました。訪問では体調や生活面を伺い支援の必要性を判断したり、趣味を通じて外出につなげたりしました。不便や不安を抱えながらも笑顔を見せてくださる姿に、人の強さを感じました。また「話せてありがたい」との言葉から、話すこと自体の意味を改めて実感し、さらに大雨や地震も体験したことで、被災者の不安を一部共有できたと思います。多様な世代のボランティアやJOCOA職員との出会いも貴重な経験となりました。

看護学部4年生 吉田 桜妃さん

みなこいワールドフェスタ



道木さん：写真左

私たちは、民族衣装を着ることによって、世界の文化に触れてみたいと思い、みなこいファッションショーに参加してきました！このショーは「ファッショントour世界一周」をテーマに伊那西高校の生徒の皆さんを中心に活動しており、ファッショントourを通して伝統的な民族衣装の美しさを発見し、異なる文化や伝統を“見て”楽しめるものです。私はイベントを通じて、言葉は通じなくてもファッショントourによって交流ができ、お互いの文化を尊重し合えることを改めて感じました。また、世界に対する関心がより深まる良い機会になりました。このような素晴らしいイベントの開催に関わってくださった方々に感謝したいです。

看護学部1年生 道木 菜摘さん

みなこいワールドフェスタは、地域の方と駒ヶ根青年海外協力隊訓練所が協力し、宮田村・中川村・駒ヶ根市・飯島町の各地で行う国際交流イベントです。私は、1年生の時に国際協力へのほんの少しの関心から参加して、地域と国際の両方の視点で人の暮らしや文化を知る楽しさに惹かれ、それから毎年関わっています。今年は、値引き体験や写真展示を通してカンボジアを知る「カンボジア市場」の企画とSNSでの発信を担当しました。地域の中高生や大人、協力隊経験者、渡航前の訓練生など多様な立場の方と関わり、地域の魅力を再発見しながら海外の文化にも触れられる点が大きな魅力です。ぜひ一度、参加してみませんか？



庄村さん：写真前列左

看護学部4年生 庄村 萌々さん

【学生の活動紹介】

<ncn fit +サークル>

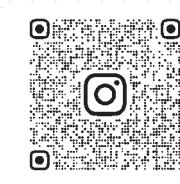
サークル名には、フィットネスだけでなく“+αの活動”にも取り組むという思いが込められています。水泳・水中運動・ヨガ・ジムなどプール棟を活用した運動を中心に、初心者から経験者まで目的に応じたペースで活動できる環境があります。また、週に1回の活動に加えて、水泳記録会やマラソンなどの地域イベントへの参加やサポートも行っています。このような多様な活動を通して、心身のリフレッシュや体力づくりを目指しています。



第13回飯島町米俵マラソンに参加しました。

<長野県看護大学公式インスタグラムサークル>

「受験の時に大学のインスタグラムが欲しかった」という思いから発足し、大学事務局と協力しながら、1年生17名で活動しています。現在は、週2回のストーリーと大学行事に関するフィード投稿を当番制で行い、授業風景や看大生の日常を発信しています!私たちは、インスタグラムを通じて、長野県看護大学をより身近で魅力的な大学だと感じてもらうことを目指しています。これからもたくさん投稿をするので、楽しみにしていてください!



長野県PRキャラクター
『アルクマ』©アルクマ

Kandaigram 2025.7 ~ 2025.12



7/29 急性期看護方法の演習風景



9/6 市町村保健師採用合同説明会



9/24 学位記授与式



10/24 消防避難訓練



10/25 ふれあい花壇撤去



10/30-31 生協学生委員会ハロウィン企画



12/19 卒業研究発表会

INFORMATION

2025年度 第2回公開講座

長野県の看護及び看護職の質向上と本学の役割

日 時 2026年2月21日(土)
13:30～15:00(受付 13:00～)

会 場 長野県看護大学 大講義室(教育研究棟3階)

講 師 長野県看護大学 学長 大塚眞理子

第22回 長野県看護大学研究集会

日 時 2026年3月16日(月) 9:10～11:35

会 場 長野県看護大学 大講義室(教育研究棟3階)

プログラム(口頭発表)

- ・長野県看護大学教員特別研究
- ・長野県看護大学看護実践国際研究センター
地域貢献活動部門

長野日報

毎月第2日曜日 長野県看護大学リレーコラム
「アルプスの麓から」 連載中(2026年9月まで)

